



おかやま環境ネットワーク

NO.58
2010.9

NEWS

発行:(財)おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

エコファミリー講座 開催報告

『のとり原まるごと探検』

水源林の自然に触れ豊かな体験をすることを目的に、7月24～25日、鏡野町のとり原キャンプ場にて開催し25名が参加されました。

着いてすぐにテントを組み立て住居を確保。その後の谷川でのいきもの観察では先生の網の使い方に納得。魚を捕るにはノウハウがありました。溪流で、はしやぎまわってつかみ取りしたアマゴは、夕食のおかずになり満足。ペろりと平らげました。

夜、トラップに集まった虫たちに見入り、ひざを揃えて説明を熱心に聞く子どもの姿は印象的。どきどきしながらコウモリウォッチングにも出かけました。



ヒノキの伐採

2日目は、ヒノキの伐採を見学し、その木で匂い袋やマイ箸を作りました。帰ってヒノキ湯につかりながら、キャンプでのことを思い浮かべることができたのではないのでしょうか。

『ふいーるどびんご』を使って原っぱを歩き見つけたエビフライ。何でしょうか。リスがマツボックリを食べた「かす」でした。



ふいーるどびんご

参加者からは、「いきものに触れて分からないことがすぐ相談でき良かった」、「家族だと道具も無くくてできないことができた」との感想が寄せられました。

テーマ別講座①開催報告

『ホテルをとおして

自然環境を考える』

7月2日、川崎医療福祉大学・梶田博司教授を講師にオルガホールにて開催し、34名が参加されました。

魅力的な「ホテル」の生態や、私たちの暮らしに身近な自然やホテルの生息環境を守っていくことの大切さなどについて、図や写真をもとにお話がありました。

一つひとつの生きもののつながりが生態系を作り出し、私たち人間もその構成員として多くの恩恵を受けており、安心して暮らしていくためにも豊かな自然を保全していくことはとても大切なことであることが改めて理解できました。

テーマ別講座②開催報告

『みんなの自然観察会

～実感！生物多様性～』

8月20日、岡山県自然保護センターにて、夏の自然と生きものを観察し、学び、豊かな自然の中で生物多様性を守っていくために私たちに何ができるかを考えるきっかけをつくることを目的に開催し、52名が参加されました。

センターでは、湿原生きもの観察、タンチョウの生態学習、竹細工などを実施しました。



No.58の内容

- I. エコファミリー講座、テーマ別講座開催報告……………P.1
- II. 寄稿『山から海まで水系一貫して考える水環境保全策』奥田 節夫…P.2
- III. 寄稿『大切なすみか～沖縄の海と地球～』田中 敦子……………P.3
- IV. 団体会員紹介『岡山の緑と水と空気を守る連絡会』近藤紗智子……P.4
- V. 団体会員紹介『エネミラ』廣本 悦子……………P.5
- VI. 法人会員紹介『岡山大学生協』大山 健二……………P.6
- VII. 『団体助成募集』ご案内……………P.7
- VIII. 各種ご案内、理事会報告等……………P.8

奥田 節夫

「山から海まで水系一貫して考える水環境保全策－児島湾の水質保全を例にとって」



最近岡山周辺の同志が集まって、児島湾の水環境に対する共同の調査、研究を図り、幸いに「おかやま環境ネットワーク」の助成を2年度にわたっていただき、今年4月に総合報告書として「児島湾における水圏環境の変遷過程の総合的研究」をまとめあげた。この調査、研究を通じて「水環境保全のためには山から海まで一連の水系を通じての総合的な調査・考察が必要であること」を痛感したので、その内容を簡単に紹介させていただきます。

児島湾の水環境の変遷の原因のほとんどは、自然環境ではなく、湾内での埋立て、水域の締切り、流入河川の流域での生活、産業活動の変貌、さらに河川上流でのダム築造による水質、土砂流出状況の変化などの顕著な人間活動の影響であったことは明らかである。

これらの原因は長い年月の間に積み重ねられており、その個々の影響については最近の環境アセスメントによって分かったものもあるが、古い時代でアセスメントが

されなかったり、当時の不十分な調査方法で不正確な結論で済まされていた場合もあった。

実例としては、児島湾内の湾奥や河口での締切りによって、締切り堤外側の潮流が弱くなり、ヘドロの堆積や干潟の減少が進み、水底での貧酸素化が進んで生態系や水産環境に悪影響を及ぼしている事実があり、その実態は学会誌や官庁の報告書に発表されている。

これと共通した現象としては、九州の諫早湾締切りによる有明海の変貌で、その実態は多くの海洋学者によって究明され、その結果は日本海洋学会編「有明海の生態系再生をめざして」(恒星社厚生閣2005年出版)で紹介されており、「有明海異変」として知られている。

児島湾でも現象の規模や水産被害の出現状態は有明海とは異なるが、物理的なメカニズムは共通しており、「児島湾異変」が生じたことは既存の現地調査や漁民の体験からも明らかである。さらに児島湾では湾外の備讃瀬戸に対しても、栄養価の高い陸水を供給しており、湾内での水の変質は広く瀬戸内海中央水域での水産環境に影響を及ぼしている。

この例でも分かるように、児島湾の水環境の変遷の原因や影響を総合的、科学的に検討するためには、単に児島湾内を調査対象にするのみでなく、流入河川の流域、隣接の水域や陸域、さらには湾外

の海域まで含めて広範な水系を対象にした調査、解析が必要である。

ただ、その当面の実現性については、残念ながら地域的な利害の対立、研究専門分野の違い、行政の縄張り区分などの障壁があり、効率的な協力作業の推進は難しい面が多い。

自分の所属する水圏科学の専門分野でも、河川、湖沼対象の陸生物学と海洋対象の海洋学との縄張りがあり、最近はその境界領域の河口、沿岸を主対象とする沿岸海洋学も発展しつつあるが、それでも児島湾を対象とする沿岸海洋学と児島湖周辺の干拓地を対象とする農業工学の間にはほとんど交流はない。また行政面では児島湖やその周辺の干拓地を管理対象とする農政と児島湾の水産環境の保全に努める漁政との間にもほとんど対話はない。

ただし、最近児島湾口のノリ養殖場の栄養塩不足対策としてダムからの放流を許可された国交省岡山河川事務所の対応は、水系一貫の水環境保全の実例として高く評価したい。

要するに、広視野、長期展望をもった水環境の回復、保全のためには、直接問題を起こした局所的な水域のみでなく、広く関連対象の水域、陸域内における産、官、学、民(地域住民)の協力が必要であるというきわめて当然の結論をここに改めて強調したい。

奥田 節夫 氏

1926年瀬戸内市邑久町生まれ。1948年大阪大学理学部卒業後、岡山大学理学部助教授、京都大学防災研究所所長、岡山理科大学理学部教授。奥田水圏環境研究所・研究員、京都大学名誉教授。(財)おかやま環境ネットワーク評議員。

田中 敦子 「大切なすみか」 ～沖縄の海と地球～



筆者は右から二人目

10数年前から、「気候がおかしくなっている」と私は感じてきた。夏の紫外線、熱射の強さで洗濯バサミの劣化が早くなり、肌はひりひりとすぐに反応し出す。年々ひどくなっているように感じる。夏は長く、秋はあっという間に過ぎ、庭のもみじがあまり紅葉しないうちに枯れることもあった。日本の四季のイメージが変わってきているように思える。

2010年、この夏、熱中症で倒れる人や死亡する人がニュースになる日が続いた。集中豪雨や雷、災害の少ない岡山でも竜巻の注意報まで出された。私たちの身近な日常にまで「地球環境の悪化や危機」を感じさせることが増えてきたように思う。目を背けようにも、背けられない現実に、「なんとかしてはいけない」という気持ちが生まれ、強まる。同じように思っている人は多いのではないだろうか。

おかやまコープでは、4月から「もづく基金」を始めている。沖縄産味付けもづくを買えば、1パッ

田中 敦子 氏

生活協同組合おかやまコープ
全体理事。
(財) おかやま環境ネットワーク
評議員。

ク当たり1円から2円の募金が沖縄県恩納村漁協におくられ、沖縄サンゴの再生事業に活かされる。私はその活動を見学に2月に沖縄を訪問した。



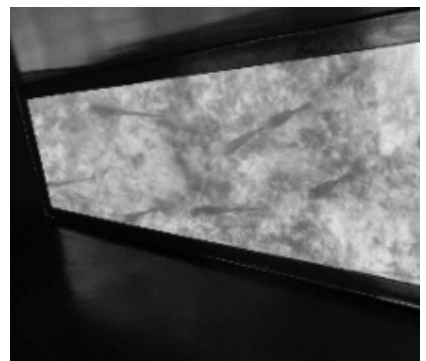
陸上のプールで育てるサンゴ

沖縄に行って、まずびっくりしたのは、グラスボートに乗って、海を覗いたときのことだ。サンゴの白い死骸がまるで骨のように海底にごろごろところがある。1998年と2002年に沖縄周辺の海水温が2℃上昇した結果、サンゴの大規模な白化現象が起こり、危機的状況を招いたのだった。現在、サンゴの生息数は10年前の1/10から1/20に減っているという。日本サンゴ礁学会では、「沖縄のサンゴ礁の現状は、研究者・行政・民間が連携して対策にあたらないければ回復が困難な状況にきている」と指摘する。恩納村漁協が始めたサンゴの再生にはこれまでに以上にたくさんの協力が必要になっている。

地球温暖化防止に向けて、省エ

ネや暮らしを見直すことに加えて、私たちが環境保全や再生の取り組みに参加することがとても大切になっている。一人ではたかがしれていると思いがちなことも、多くの人々が取り組んでいくと、成果や結果も目に見えて違ってくる。「なんとかしてはいけない」という気持ちだけでなく、私たち一人ひとりが地球を守る、大事な担い手であるという意識が環境活動への参加とともにさらに強まる。

沖縄の海底には養殖された、サンゴが育っていた。そこに魚が集まり、さまざまな海の生き物のすみかとなっている。環境を保全し再生させる取り組みはまだまだ始まったばかりである。地球という、唯一の、大切なすみかを守れるかどうかは、私たち人間の、一人ひとりの意識と行動にかかっている。沖縄の海は私にそう訴えているように思えた。



海に植え付けられた養殖サンゴ

近藤紗智子〔事務局長〕

岡山の緑と水と空気を

守る連絡会



先日、「岡山の緑と水と空気を守る連絡会」(以下「わが会」)の事務局次長Yさんが、ロシアを旅した。白樺と草原、色とりどりの草花が溢れるロマンチックな自然を巡るシベリア鉄道に乗って、大陸を横断した。その旅日記の一部が「わが会」のブログに写真入で掲載されている。掲載文を読みながら流石に広大な面積のロシアだけに、温暖化の現れもダイナミックだと変な風に感心した。

しかし、そんな軽い思いとは裏腹に、気分は塞ぐばかりであった。Yさんの話では、シベリアの森林におおわれた泥炭に火が付きその火が地中に埋まっている泥炭の層を焼きながら広がって行くそうだ。地下を這うように広がっていく泥炭火災に気づかず集落が消失した地域もあったそうだ。

ウラジオストックからモスクワまでシベリア鉄道が横断する9297kmの地域は、宗谷岬より以北にある。平年の最高気温は25℃だそう。今年には38℃の記録的猛暑に襲われた。泥炭や白樺、針葉樹などの火災が相次ぎ、各地に被害が続出。首都モスクワにまで、煙や煤塵が飛んで夜眠るときもマスクをしなければならぬほどだったという。

Yさんが火事の現場近くを、列車で通り抜けて居る頃、日本でも、ロシアの森林火災が報道された。ロシア政府非常事態省は、7月28日現在、火災発生件数282箇所。今夏、原野消失面積は41万8000haを発表したと新聞は報じていた。その後、森林火災はさらに広がり、

Yさんが帰国したときには、700箇所を超える火災件数に増加していた。私が新聞報道で森林火災を知った時は、深刻な地球温暖化問題だと思ったがさほど切迫感はなかった。しかし、身近な友人が体験した話は活字より説得力があり、広大な森林や、集落の火災が見えるようであった。「火事を消すものは誰もいなかった」「泥炭地はいったん火がつくとなかなか消えないと聞いた」とYさんはいう。人間が発生させた環境破壊が人間の力では、食い止められないことを思い知らされた。改めて自然の猛威を強く感じた。

新聞にはロシアの森林火災の状況と合わせて、南米ペルーでは、気温がマイナス24℃まで下がり死亡者が出ていると報じている。ロシアなどの猛暑や南米の寒冷化の原因は、偏西風の蛇行であるが蛇行の原因は複雑で明らかにされていない。

諸外国の大きな気候変動、とくにロシアの森林、泥炭火災は地球温暖化最悪のシナリオ、メタンハイドレートの融解とメタンバーストによる地球炎上を彷彿させ、気が滅入る。Yさんも、「もうダメかな」と思ったと印象を語った。

地球温暖化の進行は、いったいどのレベルにあるのか分からない。しかし、私自身の予想をはるかに超える速さで進んでいるように思える。Yさんが「もうダメかな」とつぶやいたのも、日本では見ることがなかった森林火災の規模や速さを目の当たりにしたからであろう。温暖化現象が産み出した激烈な気候変動に、直面すると誰しもたじろぐのではないだろうかと思った。

しかし、なにはともあれ、今私たちにできることは、諦めずに温暖化防止の運動を続けること。そして、環境保全の活動を多くの人に訴えることであろう。

世の中には、まだまだ、沢山の人が困難の中で、自然豊かな環境を守る運動を続けている。先日お会いしたNPO法人「ふれあいの里・高梁」の理事長小見山氏もその一人であった。小見山氏は、「高梁美しい森」の管理に携わって10年近くなる。「高梁美しい森」の維持管理を県から委託されNPO法人を結成し自主的活動を続けている。

NPO法人結成理由は、里山を守り、生活できる地域を取り戻すこと。過疎・高齢化によって、荒れ果てた山や田畑を「地域の力」と、自然環境に触れたい、守りたいという願いをもった都市部居住者の力を繋ぐことであった。

しかし、所期の目的達成は、大変困難な状況であるが、「次世代が育つまで、山間地を何とか持ちこたえさせたい」「結局、その繋ぎの役割が自分たちの仕事」と語った。愉快な気分になったのは、「近い将来、日本が木材の輸出国になる。なぜなら、現在の木材輸出国は、売りさばく木が消失しているから」と笑った。決して奇想天外な話ではないと思った。厳しい林業の現状をしっかり踏まえているが決して失わない展望に私も鼓舞された。

環境を守る運動を展開している私たちは、次世代が育つまで懸命に繋ぐこと。それが地球環境保全の最も近道になるのではないかと考えた。

小見山氏を訪問したのは、おかやま環境ネットワーク自然環境部会が来年2月に開催する、森林問題シンポジウムの企画にご協力いただくためであった。この企画は、昨年開催の「アマモ場再生」のシンポジウムに続く第2弾である。森と人間、森と瀬戸内海そして地球環境と瀬戸内海をぜひ多くの人々とともに考えたいものだと考える。

近藤紗智子 氏

1944年6月18日生。

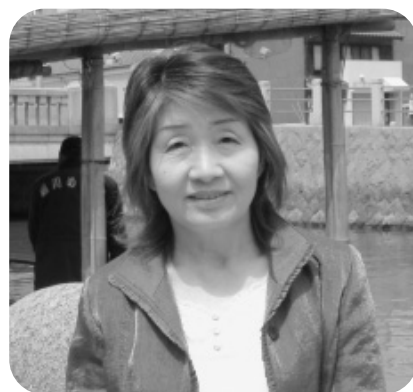
岡山の緑と水と空気を守る連絡会 事務局長。(財)おかやま環境ネットワーク評議員。

廣本 悦子〔会長〕

認定特定非営利活動法人

おかやまエネルギーの

未来を考える会 (エネミラ)



地球温暖化が深刻な環境破壊を招くと知り、2000年7月に任意団体を立ち上げ（2002年にNPO法人）、今年で10周年を迎えました。会員は現在181名、主婦や公務員、会社員、元教師、元技術者、農業従事者等、さまざまな立場の人がエネミラを支えています。

活動内容は、地球温暖化の主原因である二酸化炭素を削減することを目指し、自然エネルギーの導入拡大、省エネの推進等に取り組んでいます。



市民共同発電所1号機

1つは市民共同発電所の設置です。2002年、岡山市と協働し市立中山保育園に5.2kWの太陽光発電設備と太陽熱温水器を設置しました。約530万円の事業費は国の補助金と県内外の方々からの「おひさま基金」への寄付で賄い、不足分は借入金で充当。事後、岡山市からの交付金で借入金を返済しました。これは太陽光発電設備での発電分が岡山市に属し、エネミラには発電分の全量相当が交付金

廣本 悦子 氏

環境カウンセラー。岡山県地球温暖化防止活動推進員。省エネ普及指導員。中国地域エネルギー・温暖化対策推進協議会委員他。

として法定耐用年数の期間（1号機、15年）交付されるという仕組みを作ったためです。

2007年には2号機（10kW）を岡山市立錦保育園に設置しました。事業費は約730万円、法定耐用年数は17年です。この「自治体との協働による市民共同発電所づくり」は2009年、経済産業省の「新エネ百選」に選定されました。

2010年度は3号機を建部町の福渡保育園に設置する予定です。「おひさま基金」へのご協力をよろしくお願いいたします。

1号機の設置後、まだ自然エネルギーへの関心が低いことを痛感し、2003年、「自然エネルギー学校」を始めました。2007年までの5年間開校、受講生は高校生・大学生から70代までの150名でした。現在エネミラを支えている主なスタッフはその卒業生のみなさまです。



自然エネルギー学校

2005年、岡山県の委託により県内の小学校10校で「自然エネルギーキャラバン」を実施しました。これは前半に寸劇を上演して温暖化問題を知ってもらい、後半は屋外で太陽光パネルやソーラークッカー、ペレットストーブ、自転車発電機など自然エネルギーグッズを体験するという出前授業です。児童は早速、家庭で使わない照明は

消すなど省エネを実践してくれました。

その後、この事業は倉敷市の委託や備前県民局との協働という形で継続し年間10校程度、実施していますが、中心スタッフが高齢化してきたことから、このスタイルでの出前授業の先行きが案じられています。



キャラバン

いっしょに活動して下さるスタッフを大募集中です。

他には、公民館への講師派遣や環境イベントへの出展などを年間20~40回程度実施。また、木質バイオマスエネルギーの普及策として木くずを固めたペレットやペレットストーブの導入、太陽エネルギーの有効利用に優れている太陽熱温水器の普及にも努めています。

温暖化対策がますます重要になる一方で組織を継続して運営することは困難が伴うため、一念発起し「認定NPO法人」の申請をしたところ、7月16日付けで国税庁から認定を受けることができました。岡山県で初、中国地方で2番目だそうです。これを機に点から線・面へ、持続可能で低炭素な地域づくりに貢献していきたいと思っています。みなさまのご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

大山 健二〔専務理事〕 岡山大学生生活協同組合



岡山大学生協の設立総会は、1994年11月に行われました。翌年1995年から共済会直営5店舗を生協運営とし、委託業者10店舗とともに、大学会館および北側の木造施設などで事業を開始しました（購買・食堂・トラベルサービス・共済）。

生協設立後に、北福利施設（マスカットユニオン：1997年4月営業開始）、南福利施設（ピーチユニオン：1998年9月営業開始）が建設され、津島地区の福利厚生施設は飛躍的に改善されました。



マスカットユニオン

津島キャンパスの改善により、鹿田キャンパスの福利厚生施設を求める声が出されるようになりました。医学部学生会などを中心に

大山 健二 氏

1990年和歌山大学生協入協
1995年大学生協大阪事業連合
1997年岡山大学生協
2008年四国学院生協専務理事
2009年岡大生協常務理事
2010年岡大生協専務理事
(財) おかやま環境ネットワーク評議員

鹿田キャンパス連絡会議が結成され「福利厚生施設の改善と生協による運営」の要望書が提出され、2000年から医学部記念会館内に生協の売店（コジカショップ）を出店しました。



ピーチユニオン

2001年から公務員試験対策講座を開講し、教員試験対策講座・法科大学院試験対策講座・TOEIC対策講座などの学内講座を運営しています。公務員講座2次試験対策講座は受講生以外にも開放し、岡大生の試験対策に貢献しています。またキャリア取得支援としてIT関連資格の学内試験や学内講座開講を協議しています。

アルバイト・家庭教師紹介、住まい紹介の業務移管を大学から受け、住まい紹介では学生の仲介手数料負担軽減、入居後の生活安心サポートなど安全・安心な住生活支援事業を進めています。

学生の食生活が乱れる傾向の中、健康的な食生活を支援するために2005年からミールカードシステムを開始し、学生一人ひとりが健康・体調を考慮しながら食事ができるよう「食育」を提案しています。毎月の利用データ・栄養価データを掲載した利用履歴を帰省

先などに送付することによって、遠隔地の保護者様からの安心感・期待感も高まっています。

2006年には一般教育棟にサテライト店舗（こももショップ）を出店し、2009年には津島キャンパスに生協の独自資金で東福利施設（ピオーネユニオン：2009年4月営業開始）を建設しました。また2010年4月から組合員の念願であった鹿田食堂（仮称）の営業開始を実現することができ、大学の福利施設への貢献に努めています。



こももショップ



ピオーネユニオン

このように岡山大学生協は、組合員の願いを協同で実現するコミュニティとして、みんなのゆたかな心と暮らしを創ること、またキャンパスライフの充実を通じて、個性輝く岡山大学の発展に貢献していくことを使命として考えています。

2011年度（第13回）環境活動団体への助成募集要項です。
ご応募お待ちしております！

1. 目的

岡山県内における自然環境に関する調査・研究活動や、環境保全などの実践活動、啓発に取り組んでいる団体を活動資金の面から援助することにより、環境問題の解決に寄与します。

2. 募集対象

目的に添ったいずれかの分野で意欲のある取り組みをしている団体であれば応募できます。ただし、申請は1団体1件とします。小・中・高等学校のクラブ活動の場合は教師が申請することとします。当財団以外に助成の申請をしている場合、又は助成が決まっている場合は、その助成の内容が重複しない範囲とします。

3. 助成対象活動の実施期間

2011年4月1日～
2012年2月28日

4. 助成対象費目

①. 器具備品費

目的の達成に必要な機器（装置）器具、備品、書籍等（ただし、汎用性のあるものは対象外）
※汎用性とみなすもの：パソコン、カメラ、携帯電話、草刈り機等

②. 物品・資材購入費

目的の達成のために用いる各種材料、部品、薬品、文具類等

③. 借料

会場借料、車両借料、機械などのリース及びレンタル料等

④. 印刷費

報告書、チラシ作成等にかかる印刷費（コピー代含む）等

⑤. 通信交通費

送料、移動費用等
※電話代は対象外

⑥. 謝金

外部講師・専門家などへの謝金
※助成申請団体の構成員への支払は対象外

5. 助成額

1件あたりの助成額は、調査研究分野は20万円、それ以外は10万円を上限とします。申請内容を審査し、助成額を含めて助成の可否を理事会で決定します。

6. 募集期間

2010年10月15日（金）～
11月12日（金）
午後5時まで

7. 応募方法

「助成金交付要望書」と「団体紹介表」に必要事項をご記入の上、Eメールか郵便（FAX不可）でお送りください。フォーマットは、ホームページから入手するか事務所でも配布しています（郵送希望の場合は、120円切手を貼り、宛名を記入した返信用封筒を同封して請求することができます）。

8. 助成の決定とその後の手続

選考にあたっては、目的に沿った活動を重視し、必要性、将来性のある具体的な計画案であることを検討し選考します。

助成部会での審査を経て、2011年2月の理事会で決定します。

決定通知は2011年2月下旬から3月初旬に送付します。

決定通知を受けた団体は同時に送付する「助成金申請書」と

「誓約書」を（財）おかやま環境ネットワークに提出してください。

助成金は「助成金申請書」と「誓約書」が提出された後、2011年6月18日（土）にオルガホール（岡山市北区奉還町1-7-7）で開催予定の『助成活動報告会』（参加は必須要件）後に交付します。

9. 活動報告など

・助成を受けた全団体は助成活動終了後、「終了報告の手続き」に沿って「助成活動実績報告書」と「会計報告書」を提出し、提出後に行なわれる「助成活動報告会」に出席し報告してください（必須要件）。調査研究の部門で助成を受けた団体は成果物（論文等関連資料）も提出し、報告会で成果報告をしてください（必須要件）。

・助成終了後に活動がその後どのようになっているのかを、当財団より聞き取りさせていただく場合もあります。

・成果物及び報告書は広く当財団のホームページ等で広報します。

・成果物及び報告書は電子媒体で提出してください（ただし、電子媒体での作成が難しい場合は、必ず事前に事務局にご相談ください）。また、活動内容を写した写真を添付してください。

・助成期間終了時に余剰金が生じた場合や、期限までに報告書類の提出がない場合及び申請内容以外で使用した場合は返金していただきます。

ホテルフォーラムのご案内

これまでのホテルフォーラムの成果等をまとめた単行本「ホテルと人と文化」(11月発行予定)の出版記念を兼ね開催します。

ホテルに関心のある方どなたでも参加できるフォーラムです(岡山市と共催し「生物多様性フォーラム」として開催します)。

- ①. 日時：11月27日(土) 10～15時
- ②. 会場：百花プラザ (岡山市東区西大寺南 1-2-3)と現地
- ③. 参加費：300円、昼食代700円
- ④. 内容
 - ・講演：梶田博司氏 (川崎医療福祉大学教授)
 - ・団体報告：山南ホテルの里連絡協議会、身近な生きものの里高島・旭竜、酒津のホテルを親しむ会
 - ・昼食と交流
 - ・現地見学：3年にわたり改修に取り組んだ水路の見学
 - ・その他パネル・写真展示
- ⑤. 申込：氏名・住所・電話・昼食が必要か不要かを11月22日までにご連絡ください。

テーマ別講座③のご案内

『楽しい干潟教室～行ってみよう！みつけてみよう！～』

身近な自然に触れ、観察し、学ぶことで、私たちのくらしと自然環境の密接な関わりに気づき、一人ひとりが環境問題への関心を高めることを目的に開催します。

- ①. 日時：10月17日(日) 10～12時
- ②. 会場：永江川河口湿地 (岡山市東区乙子) 吉井川の下流です。
- ③. 参加費：無料
- ④. 内容：干潟の生きもの・漂着ゴミ調べ、干潟の役割、クイズ

大会

- ⑤. 申込：氏名・住所・電話を10月1日までにご連絡ください。
- ⑥. 募集人数：30名(小学生以上、こどものみの参加は不可、大人のみは可。定数を超えた場合は抽選)お申し込みいただきました方へは別途、抽選結果、詳しい案内文を郵送します。



環境家計簿モニター募集のご案内

環境家計簿活動は、生活の工夫でエネルギーの節約に努め、その効果を確認するものです。

気軽な気持ちで環境家計簿にチャレンジしてみませんか！

- ①. 環境家計簿のつけ方は簡単！
 - ・毎月の電気・ガス・灯油・自動車燃料・水道の使用量を把握します。領収書などで使用量を確認します。
 - ・E-mailの方は専用のフォーマットに入力、Faxの方は専用の記録用紙に記入します。
 - ・1～6月の実績を7月末に、7～12月の実績を翌年1月末までに報告するだけです。
- ②. ご登録について
 - ・取組期間：2011年1月～12月
 - ・募集対象：E-mail(携帯は不可)若しくはFaxで報告ができる方
 - ・申込締切：11月19日(金)必着
 - ※ご登録いただきますと、毎年『環境家計簿カレンダー』や、データをまとめたレポートを無料で進呈します。
 - ・申込方法：氏名(フリガナ)、電話、住所、報告方法(E-mailかFax)、E-mailアドレス(携帯は不可)、FAXをご連絡ください。
 - ・お申込みいただいた方には、12月中に詳しいご案内と『環境家計簿カレンダー』を郵送します。

自然環境 おかやま

No.9を会員の皆様に1部同封していますので、ご覧ください。

ただ今自然環境部会では、「第2回おかやま環境シンポジウム(2011年2月26日予定)」開催に向けた準備をすすめています。

8月度理事会報告

8月理事会にて、以下の事項が承認されました。

- 1. ホテルフォーラム開催
- 2. 2011年度助成募集要項・助成金交付規則の改定
- 3. 第3回テーマ別講座
- 4. おかやまエコ&フードフェア 2010への出展
- 5. 個人情報に関する内規
- 6. おかやまエネルギーの未来を考える会「市民共同発電所3号機設置事業」後援

プレゼントのお知らせ！

本紙P.2奥田氏の寄稿に紹介されている報告書『児島湾における水圏環境の変遷過程の総合的研究』を会員の皆様を対象に抽選で20名にプレゼントします。

ご希望の方は、会員名・住所を9月30日までにご連絡ください。※当選は発送をもってかえさせていただきます(11月ニュースに同封します)。

2010年度会費をまだ納付いただいていない方に振込用紙を同封しておりますので、お振り込みくださいますようお願いいたします。

お問い合わせは (財)おかやま環境ネットワーク

〒700-0026
岡山市北区奉還町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

かけがえない地球、未来の子どもたちへ！